

平成 30 年 6 月 8 日現在

機関番号：24302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02305

研究課題名(和文) 初期近代イギリスのコスモロジーの変遷と死観の変容 科学と文学の接点から

研究課題名(英文) Change of Cosmology and its Influence on Thanatopsis in Early Modern England: Science in Literature

研究代表者

岡村 眞紀子 (Okamura, Makiko)

京都府立大学・文学部・研究員

研究者番号：80123488

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：前回の助成研究成果を継続して(1)Thomas Harriotの天体観測の記録、同時代の天文学に関する著述のほぼ全容、数学論攷の一部の手稿を精査した。その一部を口頭発表、論文として公表した。(2)Harriotが依拠したGiordano BrunoやLucretiusの研究会を継続し、その宇宙論的思想の研究を深めた。(3)Harriotも一員であったthe Earl of Northumberland CircleのGeorge Chapman等の詩人達およびJohn Donneの詩や散文に表現された宇宙論の解析から、同時代の天文学からの影響を解読した。その結果を口頭発表、論文として公表した。

研究成果の概要(英文)：Continued from the research with the previous Grants-in-Aid, (1) I closely read Thomas Harriot's manuscripts, almost all of his astronomical observations and of his writings on contemporary astronomers, and a part of his treatise on mathematics. The results were presented at a conference, and published in books.

(2) I had study meetings with my colleagues, of Giordano Bruno and of Lucretius who influenced Harriot in cosmological concepts, and I cultivated my understanding a line of the cosmology from classics to Renaissance, especially at the viewpoints of infinity and atomism.

(3) Closely reading and analysing the poems of George Chapman and other poets, members of the Earl of Northumberland circle to which Harriot belonged, I examined how they expressed their cosmological concepts, and what they were, influenced by their contemporary astronomers and philosophers. The results were presented at a conference, and published in books.

研究分野：人文学、初期近代英文学、科学史

キーワード：コスモロジー インフィニティ アトミズム Thomas Harriot George Chapman John Donne Giordano Bruno Lucretius

## 1. 研究開始当初の背景

本研究が目指す Intellectual history 研究、科学と文学相互に関わる研究は、海外では、かなり盛んになって来たものの、日本ではまだほとんど見られない状況であった。

前回の科研助成によって、天文学者・数学者・航海術研究者 Thomas Harriot の手稿の解読・解析を進め始めていた。

また、同時に、Harriot も一員であった Northumberland Circle の詩人 George Chapman の研究も始めていた。それは従来本研究が行ってきた、John Donne を中心とする初期近代イギリス英詩の研究に基づくものであった。

## 2. 研究の目的

科学に数学が導入され、新たな道具の発明に伴って、思弁から観察・観測に基づく新しい研究方法へと大きな変換点を迎える、16、17 世紀天文学におけるコスモロジーの変遷を研究する。

なぜ、この変遷が「科学革命」と称されるのか、その「革命」とは何なのかを探り、それがいかに文学、特に詩に表現されたかを、体系的に明らかにするのが本研究の目的である。

文学は、人のものの見方、考え方が如実に現われるものであるゆえ、コスモロジーの変遷が人々の世界観、人間観、死生観にいかなる変化をもたらしたかを知ることができるからである。

## 3. 研究の方法

京都大学研究科科学史専修に拠点を置き、聴講生として伊藤和行教授の指導の許、科学史の研究をする。

また University of Oxford、Faculty of English に拠点を置き、associate member として英詩、科学史の研究をする。

(1) Thomas Harriot はその著述をほとんど出版しなかったゆえ、手稿でしか読むことができない。West Sussex Public Record Office で観測記録と当時の天文学(者)についての著述の手稿を読み、翻刻し、その内容を精査する。British Library の数学論攷についても、できるだけ読み、翻刻、精査する。

(2) 指導教員の伊藤教授の許、教授の専門である Galileo Galilei の著作を読み、そのコスモロジーと、それがもたらした思想的、宗教的確執を考察する。併せて Brahe、Kepler についても研究し、当時のコスモロジーの全容の理解と、その時代の社会における問題点を精査する。

(3) Northumberland Circle に属していた詩人、文人たち George Chapman、Sir Walter Raleigh などの作品を読解し、従来研究してきた John Donne の韻文に合わせ散文も精査し、そこに表現されたコスモロジーを、さまざまな観点から読み解く。

(4) コスモロジーの一つの観点、無限宇宙、アトミズムに焦点を当てて研究する。これらの思想の起源を成す Democritus から Epicurus も視野に入れ、Epicurus の思想を詩に著した Lucretius、さらに彼らの思想に共感し発展させた Bruno の著作を精読し、その思想を紐解く。前回の科研助成研究で立ち上げた二つの研究会を続け、理解を深める。Bruno は(3)で挙げた Northumberland Circle が興味深く研究し、彼らの思想の根幹とした思想家である。

(1)から(4)の研究をとおして、初期近代ヨーロッパのコスモロジーの変遷とその時代精神への影響を体系化し、その英詩における文学表象を探る。

## 4. 研究成果

(1) イギリス、チチェスタの West Sussex Public Record Office に赴き、Harriot のパトリック Henry Percy, the Ninth Earl of Northumberland の別邸 Petworth House 所蔵の、Harriot の手稿を読み、翻刻した。ここに所蔵されているものは、主に月、黒点などの天体観測記録と、当時の天文学(者)に関する所見記述である。今回前者の全部と後者の一部とを読み終えたが、これらの翻刻は翻訳を添えて将来発表の予定である。

前回の科研助成研究で、特別許可を得て読んでいた、ロンドンの British Library 所蔵の数学論攷の手稿にも再びアクセスし、コスモロジーにも関わる 'De Infinitis' を再度精読し翻刻した。この翻刻は本年度もしくは来年度、京都大学科学哲学科学史講座の紀要に発表の予定である。

Harriot の数学論攷理解のため、数学史および無限論の研究をした。古代からルネサンス期、特に中世のスコラ哲学と数学無限論の関係の理解に努めた。

'De Infinitis' 研究は、Donne 研究と併せて、十七世紀英文学会東京支部での発表を経て論文に結実した。以下の(3)で示すとおりである。

(2) 伊藤教授と Galileo の *Sidereus Nuncius* を読み、教授の翻訳『星界の報告』(講談社学術文庫)出版の助手を務めると同時に、本著のもつ問題点について知見の教示を得た。

引き続き、*Delle macchie solari* を一緒に

読ませていただいている。

Harriot は English Galileo と呼ばれ、時を同じくして天体観測に取り組んだ数学者であるゆえ、両者の比較研究は非常に重要かつ有益である。

(3) Chapman のソネット連詩 ‘To His Mistress Philosophy’ を精読、『ソネット選集』の共著者と議論を重ね、選集の一部として出版した。本詩は、Chapman の詩論を表現するもので、イギリス詩の特質をも語るものである。詩論、詩の形は、古典時代より、音楽理論と併せ、コスモロジーと密接に関わるゆえ、詩論研究もなお深めていく予定である。

本研究の総枠組みと考えている Donne の追悼詩 *Anatomy of the World* に併せ、コスモロジーの視点が色濃い宗教諷刺散文 *Ignatius His Conclave* を精読、(1)の Harriot のコスモロジーと考へ併せて解読を試みた。その成果は、十七世紀英文学会東京支部での口頭発表「New Knowledge, New Cosmology —Harriot の‘De Infinitis’ と Donne の *An Anatomy of the World* を中心にして」と、論文「《New Philosophy calls all in doubt》

Harriot の‘De Infinitis’ と 1610 年前後の Donne」(『天野恵先生退職記念論文集』)として結実した。

Sir Walter Raleigh の詩作品の精読・精査を始めた。Raleigh は、エリザベス女王のもとで航海、探検に出かけ、北米にヴァージニア植民地を設立した宮廷人である。Harriot のパトロンでもあり、彼を航海天文学士として、航海の指南役にしていた。‘The Ocean to Cynthia’ から始めたが、この中で、球体地球を認識し、航海に乗り出し、Harriot から新しい天文知識を得ていた Raleigh のコスモロジーを読み解くのが目的である。

(4) Lucretius の *De Rerum Natura* を毎週の読書・研究会で読み進め、議論した。本研究期間で、第 2 巻までほぼ読み終えた。今後も継続して全 6 巻完読する予定である。

Bruno の読書・研究会も毎月継続し、本期間では *Causa, principio e uno* をほぼ読み終えた。引き続き *La cena de le cenari* に取りかかる予定である。

これら読書・研究会の成果は(2)に示した口頭発表や論文に反映された。

(5) コスモロジーはマクロコスモスたる宇宙にとどまらず、ミクロコスモスたる地球、人体の理解にも及ぶゆえ、天文学のみならず、医学からの研究も欠かせない。その意味での重要文献である Robert Burton の *Anatomy of Melancholy* の翻訳を、前回科研助成研究期間より継続して行っている。本期間では、第 1 部の残りに続き、序、かつ第 3 部を進め、毎年、京都府立大学の紀要にて公表した。

第 3 部は、「愛の憂鬱症」の部で、Platon から Ficino、Bruno に至るネオプラトニズム・コスモロジーの重要な部分である。

(6) John Donne Society の唯一の日本人会員として、Gary A. Stringer (ed.), *Variorum Edition of the Poetry of John Donne* や John Roberts, *Annotated Bibliography of John Donne* のシリーズに、日本語での出版論文、著書の英語紹介に寄与した。それら論文、著書には、科学、コスモロジーに関わるものも含まれている。

(7) 本研究期間には国内での読書・研究会、および学会(十七世紀英文学会、日本英文学会、日本科学史学会、ルネサンス研究会)のみならず国際学会(Thamas Harriot Seminar, International Society of Intellectual History, The Renaissance Society of America, The British Society for Literature and Science, The Society for Renaissance Studies 等の会員として、学会に参加、発表、海外研究者との学術交流を深めた。特に Birkbeck College (University of London)の Dr. Stephen Clucas, History of Science Museum (Oxford)の Dr. Stephen Johnston とは密に連絡を取り合い、互いの研究について議論した。

すでに、今年 6 月の John Donne Society と来年 7 月(もしくは 9 月)の Thomas Harriot Seminar での口頭発表が決まっている。これらの発表内容を論文として仕上げ、それぞれの学術雑誌に応募する予定である。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件)

岡村真紀子、伊藤博明、(翻訳)ロバート・バートン『憂鬱の解剖』第 3 部第 1 章第 1 節第 1 項 - 第 2 節第 2 項、京都府立大学学術報告 人文、査読無、第 69 号、2017、77-98

岡村真紀子、川島伸博、(翻訳)ロバート・バートン『憂鬱の解剖』第 1 部第 3 章第 1 節第 3・4 項 - 第 3 節、第 4 章、京都府立大学学術報告 人文、査読無、第 68 号、2016、35-72

岡村真紀子、川島伸博、(翻訳)ロバート・バートン『憂鬱の解剖』第 1 部第 2 章第 4 節第 7 項 - 第 5 節、第 3 章第 1 節第 1・2 項、京都府立大学学術報告 人文、査読無、第 67 号、2015、71-113

[学会発表](計 1 件)

岡村真紀子、New Knowledge, New Cosmology —Harriot の ‘De Infinitis’ と Donne の *An Anatomy of the World* を中心にして、十七世紀英文学会東京支部、2017年10月14日、立正大学品川キャンパス

(4)研究協力者 ( )

〔図書〕(計2件)

伊藤玄悟、岡村真紀子、國司航佑、霜田洋祐、星野倫、村瀬有司、他10名、京都大学文学部、『天野恵先生退職記念論文集』、2018、319p.

岡村真紀子、桂文子、武田雅子、英宝社、『ソネット選集 ワイアットからハーバートまで』、2016、368p.

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

岡村真紀子 (OKAMURA, Makiko)  
京都府立大学・文学部。研究員  
研究者番号：80123488

(2)研究分担者

( )

研究者番号：

(3)連携研究者

( )

研究者番号：